



Kaselehlle

rahn lap

September-06



隊員としての要請【小学校教育】

ミクロネシアへは、「小学校教育」要件で派遣されています。「小学校教育とは？」小学校で習う教科といっても様々だし、何を教えるのか？どんな仕事なの？気になることかと思えます。まだまだ手探りでこれが自分の要請なのかというところもありますが、やってみたいことも含めてお話ししていきます。

小学校教育という要請自体は、小学校や小学校の教育に関わる場所に入り、そこで授業や授業作りのスキルを技術移転することです。私の今回の要請では、赴任する地域の小学校の算数科における全国統一テストの成績が低いことから、「子どもたちへの算数の授業の実施」「相互授業準備と先生方へのより良い授業の提案」を主としています。簡単に言えば、算数ができる子を増やす。これにつきます。しかしながらテストの内容を知ってテストでいい点がとれるのでは意味がないと思っています。算数は生活の中でたくさん使われています。生活に汎化するもの。今までの経験を活かして、算数を好きになってもらう授業の実施や、理解しやすい授業の仕方を検討することなどを考えていますが、まずは、ミクロネシアの子たちは算数好きなのかな？授業はどんな風にしているかな。知ることから始めています。



【どうして青年海外協力隊に？】

どうして青年海外協力隊に応募したのか。たくさんの出来事やタイミングが重なって今になっていますが、初めのきっかけは25歳の時に行ったスタディーツアーでした。開発途上国の学校や親を無くしてしまった子どもたちのいる孤児院へ行き、子どもたちの学習や生活のサポートや日本の文化を教えたり、そこで一緒に過ごしたりしながら国のことを学びました。知らないことがたくさんあったことはもちろん、短い時間で何もできなかったという思いが残ったこと、帰国後クラスの子どもたちに話した時にとってもよく聞いてくれた姿が目に見えていたこともあって何かもっとできないか、その時「青年海外協力隊」という活動を知り、いつかやりたいと思いました。そこから思えば10年とちょっと。今ここにいることに感謝しつつ活動できればと思っています。

